

院内トピックス

☆献血に協力

総合南東北病院は3月14日(木)、献血活動を行いました。福島県赤十字血液センターの移動採血車(献血バス)が来て、午後2時半から5時まで北棟裏で献血を受け付けました。医師2人を含む職員12人が400mlの献血に協力しました。

☆郵便ポスト塗装

本院正面玄関脇に設置してある赤い郵便ポストが3月15日(金)、塗り直されました。写真。長年の



経過で塗装が劣化したため郡山郵便局の指示で業者が塗り替えしました。ポストは本院関係者や通院、

入院の患者さんらに利用されています。再び輝きを取り戻したポストを今後も大切に利用していきたいでしょう。

☆クールビズ

南東北グループは環境省が推進する地球温暖化・省エネ対策に呼応して、今年も5月から9月まで、本院の総合南東北病院をはじめ全施設で実施します。グループとしての実施は9年目。期間中は原則として①職員の服装は軽装(フーネクター、半袖を認める)②冷房設定温度は28度程度とします。皆様のご理解とご協力をお願いします。

7人に修了証を授与

平成29年度初期臨床研修医



寺西院長から修了証書を手渡される平成29年度初期臨床研修医(右)

総合南東北病院で医師としての第一歩を踏んだ平成29年度初期臨床研修医の修了祝賀会が3月11日(月)夕、院内で開かれました。

2年間の初期臨床研修を修了した7人の医師と、指導に当たった医師や病院の幹部職員ら約70人が出席しました。脳神経疾患研究所の吉本高志最高顧問がいささつ、渡邊一夫理事長が「謙虚さを忘れな

い医者であってほしい」とはなむけの言葉を贈りました。

修了証を手にした医師は4月から専門医を目指して新たな勤務先で専門研修を受けます。

7人の研修医は一人ずつ2年間の思い出や感想を披露し、指導医の村上昌雄先生(放射線科)と金子知香子先生(神経内科)より励ましの言葉を授けました。



第7回日本脆弱性骨折ネットワーク学術集会に合わせ開かれた市民公開講座

郡山で脆弱性骨折学術集会

本院が事務局担当

骨がもろくなつて起こる脆弱性骨折の治療と予防について研究の成果を披露する第7回日本脆弱性骨折ネットワーク学術集会は3月8日(金)、9日(土)の2日間、郡山市のホテルハマツで開かれました。

実行委員会の主催で、総合南東北病院外傷センターが事務局となりました。今回は大腿骨転子部骨折の治療と二次骨折予防がメインテーマ。約200人が参加しました。初日は学術集會会長で同外傷センター長の松下隆先生(福島県立医科大学外傷学講座主任教授)が開会あいさつした後、学術発表が行われました。

大腿骨転子部骨折治療に関する発表では、松下先生が「術直後から全荷重負荷可能なデバイスOLHS(オプリーク) あなたの手術は全荷重制限なしで歩行訓練できますか」と題して講話しました。

2日目も発表を続行し、一般演題「脆弱性骨折の治療」で、総合南東北病院リハビリテーション科の理学療法士・影山喜也さんが「認知症患者における術後早期の歩行は急性期退院時ADLに影響を与えるか」と題し発表しました。会場ロビーでは、総合南東北病院の看護部とリハビリテーション科がそれぞれポスター発表を行いました。

今回の学術集會では終了翌日の3月10日(日)午前10時から、総合南東北病院でサテライト企画も開かれました。「STOP!ドミノ骨折/骨粗鬆症の治療と予防」を共通テーマに、南東北福島病院の田地野崇宏理事長特別補佐監(整形外科)、総合南東北病院の竹中信之外傷センター科長(福島県立医科大学外傷学講座教授)、福島県立医科大学附属病院整形外科の山田仁准教授が研究を発表しました。

また、3月8日(金)には午後3時半から郡山市労働福祉会館で脆弱性骨折予防の市民公開講座も開かれました。